

SCOT SUMMER SEASON

Photo / Toshiharu Murosawa

山奥で 世界の演劇に であう

舞台の向こうには湖水が広がり、照明を浴びた山の木々が浮かびあがる。劇団SCOTの代表作『世界の果てからこんにちは』では、ロケット花火が湖を横切り、あちこちから火花が噴き出す。老人の妄想の中の戦争の情景だ。頭上に

広がる打ち上げ花火の迫りに歓声が上がります。「花火芝居」とも呼ばれるこの作品は、野外劇場のここ

でしか見られない。「一度観てみたい」と県内からバスで来た母娘や、「花火が上がって好きだから」という村民、リピー

ターの学生や複数の大学ゼミ。会場となる利賀芸術公園は、富山空港から車で約1時間。冬は雪に閉ざされる山奥だが、キャンプ場もあり、期間中はグルメ館がオープンする。自然とのふれあひも兼ねて、大勢の人がやってくる。

2015年のSCOTサマー・シーズンには25か国から約300名の演劇人が集まり、アジア各国の作品が上演された。昼はイワナやお蕎麦を楽しみ、夜は観劇。終演後の高揚感と解放感を味わえば、初めて会った人もみんな仲間だ。



劇団SCOT (Suzuki Company of Toga)

1966年、鈴木忠志を中心に早稲田小劇場として創立。1976年に拠点利賀へ。合掌造りの民家を改造した劇場で活動を始め、後に富山県や南砺市と協力して6つの劇場、稽古場、宿舎などを増設。一帯を富山県利賀芸術公園として整備した。日本初の世界演劇祭の開催、海外の演劇人との共同制作など多国籍な活動を展開している。今年は創立50年、拠点を利賀に移して40年の節目の年。北陸新幹線も開通し、ますます見逃せない。

